

## カヤネズミ

日本のネズミ類では最小で、背側は赤茶色で腹側が白色です。耳が小さく、ヒメネズミと比べ横顔は丸く見えます。尾は細長く、物に巻きつきやすくなっています。

名前が示すようにカヤやススキなどのイネの仲間が繁り、水気のあるところに生息します。水面を泳ぐこともありますが、草から草へと渡り歩いて生活しています。

特徴的な習性として、カヤやススキなどのイネの仲間の葉を編んで直径 10cm ほどのボールのような巣を作ります。巣のある高さは 70～110cm で、春の終わりと冬の初めに低く、夏～秋は高くなります。冬には堆積物や地下に穴を掘ります。

野外での食物は分かっていませんが、ヒエ、アワ、アサ、ヒマワリの種子、サツマイモ、煮干、バッタ類などが飼育下のおもな食物です。

子供を産む回数は大部分の地域では春と秋の 2 回で、1 回に 2～8 頭生みます。



カヤネズミの巣

### 富士市での現状

一般的に低地から 1200m あたりの高いところまで広く分布しています。昭和 40 年代には富士山麓で捕まえた記録がありますが、湿地の開発、河川敷での公園化やグラウンド化などにより草地が減少し、カヤネズミの数が減少していると考えられています。そのため静岡県内では、生息条件の悪化などにより絶滅してしまう可能性が大きくなると考えられています。富士市内では浮島ヶ原と江尾で巣を確認しました。

### カヤネズミを確認したメッシュ

